

第3回 浮体式洋上風力発電施設の安全評価手法等検討会 議事要旨

1. 検討会概要

○日時：令和7年2月7日（金）10:00～12:00

○場所：海上技術安全研究所本館1階会議室A/オンライン

2. 議事概要

○事務局からの説明

- ・ 議題1 令和6年度事業のまとめ

○主なご意見

今後検討すべき課題・論点について委員より以下の意見が提示された。

- ・ TLP（Tension Leg Platform）の場合、浮体の平面運動よりも傾きの方が検知しやすいように思うので、検知手法も併せて検討するとよい。
- ・ TLPやトート係留のような新しい技術について、津波に対する安全性に関心を持つ声も聞かれるため、これらの情報発信も併せて行っていただきたい。
- ・ 今回提案したモニタリング手法は、係留システムのどの部分の検査を置き換えることができる手法か、前提条件や範囲を明確に記述したほうがよい。
- ・ 課題事項のうち「A-2 係留ライン等の設計に関する事項」については、面外曲げが係留システムの強度に影響を及ぼすところ、①引張以外の面外曲げが作用する場合がある浮体施設と係留ラインをつなぐ場合、②引張のみが作用する場合、の2つに分けるという考え方はご了解をいただいた。文章表現は改めて協議を行うこととする。